

令和6年度実績に係る指定管理者評価シート(令和7年度評価実施)

(1) 指定管理者	社会医療法人 厚生会 (岐阜県美濃加茂市健康のまち一丁目1番地)
(2) 指定期間	平成22年4月1日から令和15年3月31日
(3) 業務の範囲	(1) 病院における診療(診療時間外における救急診療を含む。)及び健康診査 (2) 病院の施設及び設備の維持管理に関する業務 (3) 病院の利用に係る料金(以下「利用料金」という。)の収受に関する業務 (4) 地方公営企業法(昭和27年法律第292号)第33条の2の規定により委託する手数料の徴収に関する業務 (5) 前各号に掲げるもののほか、甲乙協議の上、甲が必要と認める業務

評価の定義
 ○ 期待どおり又は期待以上
 △ 事業の実施に問題はないが一部に改善の余地がある
 × 事業の実施に支障あり。あるいは法令違反がある。
 ()は前年度評価

協定 仕様書	協定、仕様書の内容	事業計画書の内容	評価対象事項	6年度の主な実績	評価結果		市の評価
					市	委員会	
診療 協21 仕第6	基本的医療機能	【基本的医療機能】 現行診療科の維持	基本的医療機能・入院診療・外来診療 ・職員配置 ・外来診療体制及び外来患者数	職員配置(令和7年3月31日時点) ・常勤医師44人、非常勤医師52人 ・看護師(准看、助産師、保健師含む)常勤153人、非常勤24人	○ (○)	○ (△)	①令和6年度は年度当初は常勤医師が36人であったが、内科、整形外科等で常勤医師が増え、全体で8人増となっている。 ②令和元年度に基幹型臨床研修病院として臨床研修医の受入が可能となり、令和6年度も引き続き若手医師の積極的な受入、育成を行っている。 ③看護師について、常勤は前年度よりも4人増となっている。また、外国人技能実習生を積極的に受入れ、ナースエイド(看護助手)として雇用している。 【委員会意見】常勤医師や看護師の確保が困難な状況の中、大変努力していただき、目標数に達しており、評価は○とする。
	外来診療	常勤医師42人、非常勤55人、 看護師(准看、助産師、保健師含む)151人、非常勤30人	・入院診療体制と入院患者数、手術件数	外来診療及び診療科の設置状況 ・外来患者数 120,841人(対前年度比3.5%増)。 ・1日平均患者数 412人	○ (○)	○ (○)	①前年度外来患者数から増加し、目標数にも達することができた。 ②内科、整形外科の常勤医師が増え、前年度を大きく上回る患者を受け入れることができた。 ③新型コロナウイルス感染症について、令和6年4月1日以降予防接種法上の定期接種(B類疾病)に位置付けられ、発熱外来による診療等は令和6年6月9日で終了、それ以降は通常の診療で対応した。 ④30の診療科を標榜し、適切な医療の提供を行っている。
	入院診療	【外来・入院患者数】 外来患者数 114,600人 入院患者数 70,900人	【手術件数】 外科390、整形外科350、婦人科300など 合計1,305件	入院診療・手術件数 ・入院患者数 72,682人(対前年度比17.0%増) ・1日平均患者数 199人 ・手術件数1,121件(対前年度比9.8%増)	○ (△)	○ (△)	①前年度入院患者数から増加し、目標数にも達することができた。 ②内科、整形外科の常勤医師が増え、前年度を大きく上回る患者を受け入れることができた。 ③外科、婦人科で手術件数が減り、全体の手術件数は目標数に達することができなかった。
	安全管理に基づく医療の提供	【安全管理】 安全管理指針の策定と安全管理委員会、研修の開催 院内感染防止指針の策定と対策委員会、研修の実施 医薬品安全管理者の配置と研修の実施 医療機器安全責任者の配置、研修実施、保守点検計画	・安全管理・医療倫理 安全管理指針の策定 安全管理委員会の開催 安全管理研修の実施 院内感染防止指針の策定 院内感染対策委員会の開催 院内感染対策研修の実施 医薬品安全管理者の配置 医薬品の安全使用研修の実施 医療機器安全責任者の設置 医療機器安全使用研修の実施 医療機器の保守点検計画の策定及び実施 倫理委員会の設置	安全管理・医療倫理(左記項目に対する実施状況) 「多治見市民病院における安全管理のための基本指針」 12回 2回 「多治見市民病院院内感染対策指針」 12回 2回 配置(薬剤部長) 1回 配置(放射線技術課長) 13回 院内医療機器保守点検計画を策定、日常的に点検を実施 設置(委員長は院長)	○ (○)	○ (○)	①安全管理委員会、安全管理研修、院内感染対策委員会、院内感染対策研修を定期的に開催し、院内の安全対策等は適切に行われている。また、医療機器の保守点検・安全使用研修等も適切に実施されている。 ②新型コロナウイルス感染症について、令和6年4月1日以降予防接種法上の定期接種(B類疾病)に位置付けられ、発熱外来による診療等は令和6年6月9日まで実施した。

医師・看護師の確保状況

	H22.3.31		R6.3.31		R7.3.31	
	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤
医師数	12	23	36	61	44	52
看護師数(准看含)	85	19	149	30	153	24

診療科別医師数(R7.3.31)

科名	常勤	非常勤	科名	常勤	非常勤
内科	17	23	耳鼻咽喉科	1	1
外科	4	5	形成外科	1	1
脳神経外科	1	2	リハビリ	0	1
整形外科	2	4	放射線科	1	1
婦人科	2	2	麻酔科	1	2
皮膚科	2	1	救急科	1	0
泌尿器科	0	4	病理診断科	1	0
小児科	1	5	臨床研修医	8	0
眼科	1	0	合計	44	52

手術件数

	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
内科	18	19	17	12
外科	407	359	370	295
整形外科	367	330	195	267
形成外科	28	25	21	115
脳神経外科	23	29	24	24
皮膚科	0	3	0	9
婦人科	276	281	276	227
眼科	83	115	102	134
耳鼻咽喉科	7	2	16	38
合計	1,209	1,163	1,021	1,121

専門外来の開設(R7.3.31現在)

内科	呼吸器・アレルギー内科外来、腎臓・リウマチ膠原病内科、ペースメーカー外来、肝臓内科、CKD・難病相談外来、物忘れ外来、パーキンソン病外来
外科	胆石外来、鼠径ヘルニア外来、腎臓移植外科、心臓血管外科
皮膚科	鶏眼・胼胝外来
小児科	小児腎臓内科外来、小児神経外来、小児循環器外来、小児外科、小児血液外来

	外来患者数(実績)				入院患者数(実績)			
	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
内科	43,793	44,289	47,444	51,223	36,191	42,305	42,871	45,349
小児科	7,778	4,220	5,546	5,158	766	230	89	42
外科	6,423	6,210	6,406	5,743	9,820	8,495	7,697	5,963
整形外科	11,050	11,119	10,394	12,593	9,399	9,846	4,746	15,488
形成外科	948	1,043	1,058	2,226	0	0	0	1,190
脳神経外科	2,831	2,686	2,613	2,669	3,479	2,356	2,448	2,000
皮膚科	9,864	10,578	10,131	10,618	1,528	1,461	1,305	339
泌尿器科	3,778	3,412	3,585	3,429	0	0	0	0
婦人科	8,324	8,428	9,551	8,331	2,115	1,876	1,708	1,377
眼科	5,005	4,981	4,950	5,155	2,226	1,221	233	357
耳鼻咽喉科	4,375	4,050	3,478	5,582	1,888	1,036	1,044	570
放射線科	1,747	1,789	1,754	1,685	0	0	0	0
救急科	9,299	9,555	9,791	6,429	3	1	0	7
合計	115,215	112,360	116,701	120,841	67,415	68,827	62,141	72,682
対前年度	3.6%	-2.5%	3.9%	3.5%	5.3%	2.1%	-9.7%	17.0%

令和6年度実績に係る指定管理者評価シート(令和7年度評価実施)

協定仕様書	協定、仕様書の内容	事業計画書の内容	評価対象事項	6年度の実績	評価結果		市の評価
					市	委員会	
政策的医療							
協22 仕第7	救急医療 24時間365日の第二次救急医療体制を組む 休日急病診療に協力する	・地域医療機関(診療所など)に対し、当院における救急受け入れ可能診療科や当直・待機体制などの情報提供を行うなど連携を密に取り、診療所の診療時間内や休日急病診療の運用時間内の紹介患者診療時間の拡大(土曜診療の実施)等により、積極的に受け入れる。 ・救急車受入では、救急車専用電話を設置し、救急隊からの要請を迅速に対応していく。 ・更なる連携強化を目的に救急隊と多治見市民病院長の医師で定期的に症例検討会を開催していく。	地域医療機関への情報提供の実施状況 救急患者数 救急搬送件数 救急医療体制の状況 休日急病診療実績	・新型コロナが5類になったことを受けて、令和6年6月より発熱患者の対応方法を変更し、救急患者数は大幅に減少した。これまですべての発熱患者が救急外来を経由していたが、直接各診療科を受診する体制となり、受診時の待ち時間の短縮につながった。また、一次救急の減少により二次救急の受け入れ態勢を再構築することができた。 ・令和6年度の救急搬送件数は、前年比8.2%増加し2,646台となった。 ・市内の救急搬送の約45%を当院で受け入れた。今後も積極的な受け入れに取り組んでいく。 ・土曜日の夜間(主に土曜19時～21時半)54日実施114人(前年度:54日実施81人) ・休日急病診療(主に日祝の13時～17時)71日実施1,524人(前年度:71日実施1,483人)	○ (○)	○ (○)	①救急搬送受け入れ体制強化の結果、年間救急搬送件数は前年度を上回ることができた。また、多治見市の救急搬送全体の約45%を市民病院で受け入れた(前年度から約8%増加)。 ②土曜日夜間の診療、休日急病診療では着実な実施により、前年度を上回る結果となった。 ③令和6年度の年末年始は、新型コロナウイルス感染症及び季節性インフルエンザの同時流行等により患者が急増(通常休日の受入患者数よりも1日あたり約100人増加)、医師を追加して対応するなど救急医療体制を維持していただいた。 【委員会意見】年末年始に季節性インフルエンザの大流行に加えて、新型コロナウイルス感染症の患者等の対応で大変な負担をいただき、救急医療体制を維持していただいた。
	小児医療 小児医療(小児救急医療を含む)を実施する	・多治見市民病院自体は土曜日診療を実施しており、特に小児科では発熱、咳、嘔吐、下痢などの症状を訴える小児に多い急性疾患や地域の小児医療機関からの紹介患者を積極的に受け入れていく。また、日曜日と祝日の8:30～17:00の間も、小児科医による日直体制を継続して実施していく。 ・小児の救急医療については、風邪症候群・感冒性腸炎といった小児に多い急性期疾患や、さらに重症化した気管支炎、肺炎などははじめ、熱性けいれん、喘息発作など様々な急性疾患に関して365日、日勤帯において積極的に対応していく。 ・引き続き岐阜県医師会の学校検診委員会に所属し広く地域に貢献していくと共に、小児腎臓専門医による多治見市児童の腎臓病の早期発見システムの構築に努めるなど診療の質の向上に努めていく。	患者数 土日及びオンコール等の体制整備状況	・多治見市民病院は土曜診療も実施しており、発熱、咳、嘔吐、下痢などの症状を訴える小児に多い急性疾患や地域の小児医療機関からの紹介患者の受け入れを行った。また、日曜、祝日の8:30～17:00の間も、小児科医による日直体制を継続し実施した。 ・年末年始においては、1日あたり最大で100人程度の風邪症候群・感冒性腸炎といった一次救急に対応し、東濃地域の小児医療に貢献した。 ・岐阜県医師会の学校検診委員会に所属し広く地域に貢献していくと共に、小児腎臓専門医による多治見市児童の腎臓病の早期発見に努めるなど診療の質の向上に努めている。	△ (△)	△ (△)	①日勤帯においては、365日対応できる体制をとっており、地域の小児医療機関からの紹介患者の受入も行っている。 ②常勤医師は小児腎臓専門医であり、質の高い医療の提供が可能となっている。 ③令和4年度から常勤医師が1名となっていることも影響し、入院患者数は年々減少し、外来患者も前年度を下回る結果となった。小児医療に対する市民病院への期待は大きい。評価は△とする。 【委員会意見】全体として人口(出生数)が減少してきているものの、小児の外来患者数、入院患者数は前年度を下回っているという実績から評価は△とする。
	リハビリテーション医療 運動器リハビリテーション、回復期リハビリテーション医療を提供する	・令和5年度より回復期リハビリテーション病棟での祝祭日のリハビリの提供を開始した。 ・令和6年度は整形外科常勤2名体制となり運動器リハビリの増加が考えられる。令和5年は病棟クラスターやリハビリ課内クラスターで仕事に制限がかかり、目標値に達しなかった部分もあり、来年度の数値は一部継続目標となっている。 ・令和6年度の目標として回復期リハ病棟の日曜日開始し、さらに充実したリハビリテーションの提供を掲げる。	リハビリテーションの体制 リハビリテーション実施件数	・令和6年度は職員3名(理学療法士2名、言語聴覚士1名)の増員と1名(理学療法士)の途中退職で実質2.5名の職員増となった。 ・事業計画にも挙げた隔週日曜日の回復期リハビリテーション病棟でのリハビリも開始したが、病棟の稼働率増加の中、単位数は昨年の53,381単位から47,047単位へ減少となった。回復期リハビリテーション病棟の平均入院患者数は増加しているが、脳血管疾患患者の減少を認めた。それによる理学・作業・言語の3療法介入件数の減少が要因と考える。 ・リハビリ全体では、件数は昨年より約10,000件増加、単位数も13,762単位増加した。回復期リハビリテーション病棟以外の脳血管疾患患者の増加と4月から整形外科常勤医師2名となり、運動器疾患患者が増加したことが要因と考える。	○ (○)	○ (○)	①整形外科の患者数の増加に伴い、運動器リハビリの実施件数も前年度より大幅に増加した。 ②令和5年度に祝日に、さらに令和6年度は隔週日曜日に回復期リハビリを開始し、患者のQOL向上をサポートした。 ③直営時代には対応していなかった作業療法、脳血管リハビリの分野も実施し、リハビリ機能は充実している。 ④県病院からの回復期患者の受入を積極的に行っている。 ⑤平成28年度から開始した廃用リハビリについても年々実施件数が増加している。
	保健衛生事業 生活習慣病の予防・早期発見を目的とした人間ドック、内視鏡ドック、健康診査、保健指導、医療相談等、保健衛生に関する事業を実施する 乳房、骨密度など女性を対象とした検診を実施する 予防接種を行う	・人間ドック、脳ドック、健康診断等の基本的業務は引き続き実施するとともに、新規の企業にも積極的に受診を勧めるなど、未受診者を出さない街づくりにも貢献できるよう努める。 ・胃がん検診では、バリウム検査から内視鏡検査に移行することを推進する。また、接遇にも力を入れ、外部の接遇研修へ積極的に参加するなど、雰囲気も改善し受診者のリピート率向上に努める。 ・受診者の少ない閑散時期にはキャンペーンを企画・実施し、過去に受診歴のある方へダイレクトメールでお知らせをするなど、未受診者の受診率向上に努める。	健診等の実施件数 保健指導・相談件数 予防接種の実施状況	・胃がん検診は「バリウム」「胃カメラ」を実施しているが、早期の発見に優れているとされる「胃カメラ」の枠を拡大し、前年度の1.4倍の受診者の受け入れを行った。 ・乳がん検診、子宮がん検診についてはWEB予約を継続した。24時間予約を行うことができ、受診者さんからもおおむね好評であった。しかし、受付開始直後は予約が殺到し予約可能枠を提示できない状況となったため、今後は枠の設定を再検討し運用する。加えて、WEB予約対象の検診拡大をするなど利便性向上に努める。	○ (○)	○ (○)	①健診実施件数は前年度を上回り、目標件数である13,900件も達成することができた。 ②胃がん検診については、胃カメラの枠を拡大、前年度1.4倍の受診者(令和5年度108件、令和6年度152件実施)の受け入れを行った。 ③健康診断後の保健指導の実施、二次受診率の向上対策など、市民の健康維持への貢献を進めている。

令和6年度実績に係る指定管理者評価シート(令和7年度評価実施)

協定仕様書	協定、仕様書の内容	事業計画書の内容	評価対象事項	6年度の主な実績	評価結果		市の評価
					市	委員会	
	災害時医療 災害発生時に被災地内の傷病者等の受入れ及び搬出並びに被災地への医師・看護師の派遣が可能な体制の整備に努める	・災害時医療の拠点病院として、ヘリポートをはじめ必要な診療設備を整備し災害発生時には傷病者の受け入れが速やかに行えるようになっている。 ・災害時医療に対するマニュアルを整備し、医療従事者に対し年間を通して定期的に災害医療に対する研修をする。また、災害発生時に必要な救急医薬品、衛生材料及び医療機材、トリアージ・タッグ等を整備し、災害時における救護班の編成及び傷病者の受け入れが速やかに行えるよう医療要員の非常召集体制を構築していく。	研修の実施状況 訓練の実施状況	・災害時医療の拠点病院として、ヘリポートをはじめ必要な診療設備を整備し災害発生時には傷病者の受け入れが速やかに行えるようになっている。 ・BCP(事業継続計画)を策定し、医療従事者に対し災害時医療の研修を定期的に実施している。	○ (○)	○ (○)	①トリアージ訓練を実施し、災害発生時に備えた対応を実施している。 ②BCPの見直しを適宜行っている。 ③災害時医療の研修を定期的に開催している。 ④救急医薬品、衛生材料費等を備蓄し、災害に備えた体制を整備している。
地域医療連携 協23 仕第8	地域医療機関との連携・協力、地域医療の質向上のための取組み 地域医療連携室を設置する 患者や市民への地域医療に対する啓発活動、情報提供活動等、地域医療全体の質を向上させる取組みを行う 医師、看護師、医療技術職員等の養成課程等のための実習及び研修病院として、学生等の受け入れを積極的に行う。 研修医の実習場所として、取り組む 養成学校等に職員を講師として派遣する 開業医との症例検討会等を実施し、地域の医療の質の向上に努める	左記の協定事項の着実な実施 開業医との信頼関係醸成(時間外の紹介、CT、MRI等の対応) 目標値として紹介率36.8%、逆紹介率28.0%	紹介患者数(率) 実施した啓発活動 実習の実績(対象、受入人数、実習内容等) 職員の派遣実績 症例検討会等の実施実績	・紹介率38.1%、逆紹介率25.4%。 ・実習受け入れ(中部国際医療学院63人、中部学院大学6人、岐阜医療科学大学40人、中京学院大学25人、東濃看護専門学校110人、多治見市医師会准看護学校52人)合計 ・年間を通して医学生延べ50名受け入れ。 ・R1.4月より基幹型研修病院となり、研修医4名が入職。R6年度末時点で研修医8名。 ・多治見准看護学校に職員派遣(5人47回) ・高齢者施設に特定行為看護師派遣(4施設毎月定期巡回) ・地域連携バスの件数:脳卒中27件、大腿骨12件 ・開放型病棟の実績:0件	○ (△)	○ (△)	①紹介率については、30%以上を維持し、前年度及び目標値を上回ることができ、評価は○とした。 ②県立多治見病院との間に救急ホットラインを設置し、相互連携を図っている。また、地域医療機関(開業医)との連携強化にも取り組んでいる。 ③研修医の受け入れを積極的に行い、令和6年度末の臨床研修医は8人となっている。市民病院での研修を希望する学生も年々多くなっている。 ④実習生の受け入れ、准看護学校への職員派遣など、地域に貢献している。また、外国人技能実習生の受け入れを積極的に行っている。 ⑤令和元年から開始した特定行為看護師による周辺高齢者施設への定期巡回を継続的に行い、切れ目のない医療を受けられるネットワークを構築している。
	市民参加の促進 医療情報、経営情報等の情報公開の推進を図る 病院ホームページの開設、広報誌の発行など病院広報やアンケートなどの広聴を積極的に行う	左記の協定事項の着実な実施	広報の実績 イベントの開催実績	・広報たじみに連載コラム「地域と共に考える医療」(毎月)を掲載。 ・広報たじみ8月号に「今、未来の医療を支える」として研修医育成の特集を掲載。 ・広報たじみ8月号、11月号、3月号に糖尿病教室開催を掲載。 ・広報たじみ3月号に健康ウォーキングを掲載。 ・運営会議他25委員会を随時行った。	○ (○)	○ (○)	①ホームページによる診療案内、生活情報誌(おりべくらぶ等)を利用した医師の紹介、診療情報提供等を行った。 ②「広報たじみ」に毎月連載コラムを掲載し、診療情報の提供など積極的な広報活動を行っている。 ③「広報たじみ」8月号において、基幹型臨床研修病院として全国から集まる臨床研修医の「人財」育成に関する取り組みを周知した。 ④ケーブルテレビでの放送や院内放送、Youtube配信など、積極的な広報活動を行った。 ⑤小学生を対象に医療職に興味を持ってもらうために実施しているメディカルスタッフ体験ツアーについて、好評のため2回開催した。 ⑥病院長による腎臓に関する講演会を実施(11月)、講演会にコンサートを取り入れるなど市民により気軽に興味を持っていただける講演会となった。 【委員会意見】広報紙での医師の紹介やイベントなど実施しており、今後も市民病院を身近に感じていただける努力を続けていただきたい。
	市の施策協力 障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律(平成17年法律第123号)第5条第8項に規定する短期入所、多治見市障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための条例(平成18年条例第42号)第4条第2項第3号に規定する日中一時支援事業の提供事業者となる	左記の協定事項の着実な実施	利用実績	・のべ0人	△ (○)	△ (○)	①新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行後、令和6年度の実績は0である。 ②今後の受入体制について検討いただきたい。
	介護保険事業等高齢福祉に協力する 介護老人保健施設、介護老人福祉施設の協力病院となる 医療相談室を設置し、市の高齢福祉担当及び居宅介護支援事業所との連携を図る	左記の協定事項の着実な実施	協力病院となっている施設の一覧 医療相談件数	・5施設(ベルツリー、メモリアル光陽、清涼苑、ケアハウスピアンカ、陶生苑) ・医療相談件数 1,076件	○ (○)	○ (○)	①市内介護施設の協力病院となっている。また、市外にある介護施設との連携強化にも取り組んでいる。 ②総合医療相談室を設置し、医療相談を実施。 ③市の高齢福祉課や福祉課、居宅介護支援事業所等と連携し、退院後の施設紹介等を実施している。
施設等の維持管理 協26.31 仕第11	施設の維持管理 患者安全を第一に考え、施設機能面から診療に寄与する施設の維持・管理を行う 衛生管理、感染防止に基づく維持・管理を行う 病院施設として予防保全に努める	施設管理計画書・・・施設箇所ごとに法令検査又は自主検査計画	施設管理計画の実施状況	法令又は自主検査を適正に実施 【主な施設】 毎月検査施設 6(エレベーター等) 年2~4回検査施設 8(空調設備等) 年1回検査施設 19(電気設備等) ※地下タンク貯蔵所の清掃は3年に1度。令和6年度に実施、次回は令和9年度に実施予定。	○ (○)	○ (○)	①設備の保守点検等施設管理は適切に実施されている。 ②医療機器については、超電導磁石式全身用MRI装置、超広角走査型レーザー検眼鏡、眼科用レーザー光凝固装置などを購入した。
				【参考】 ① 収益合計5,514,069千円(入院収益3,482,341千円 外来収益1,616,437千円等) ② 費用合計5,241,150千円(給与費2,808,695千円 材料費959,074千円 経費1,178,596千円 等) ①-②=272,919千円(利益(運営支援補助金を含む))	-	-	①新型コロナウイルスが5類感染症に移行により、コロナに関連する補助金はなくなったが、前年度に引き続き黒字額を計上、コロナ禍前の水準となった。 ②平成29年度以降、黒字決算を継続しており、大変な経営努力が行われている。